

# 道南バスが7月に創業100年

# 長谷川義郎社長「地域を盛り上げるために全力尽くす」

道南バス（本社・室蘭市）が今年7月3日、創業100年を迎える。地域に密着し、大正、昭和、平成、令和と走り続けてきた1世紀の間には幾多の困難があったが、現在も深刻な人口減や運転手不足など、バス業界を取り巻く情勢は非常に厳しい。そうした状況下、北海道バス協会と室蘭観光協会の会長も兼務し、自社のみならず業界全体の発展、地域振興のために奔走する長谷川義郎社長に話を伺った。

（フリーライター・内海達志）

## 噴火、震災、コロナを乗り越えて

——創業100年を迎えられる今のお気持ち

は 100年前など想像もつかない世界ですよね。振り返れば、多難の連続でしたが、よくここまで辿り着いたなという心境です。一時は経営不振に陥り、会

社更生法を適用したこともありました。地域や株主の皆様のおかげで乗り越えることができました。

——印象に残っている出来事は

災害ですね。2度の有珠山噴火があり、平成のときは、伊達と洞

爺の営業所の職員が地域住民の避難のサポートに奮闘してくれました。もちろん、彼ら自身も被災者だったので

が。

そして胆振・東部地震。弊社も平取営業所が甚大な被害を受けました。震災の影響がようやく落ち着いてきたところで、私が社長に就任してすぐ、今度はコロナですからね。登別温泉などは中国人観光客であふれ返り、増便でも対応できないほどだったのに、中国政府が渡航をストップした翌日から完全に無人になり、あれは衝撃的な光景でした。これらは100年の歴史の一部に過ぎませんが、まあ大きな出来事が続いたと思います。

——「嬉しい悲鳴」が一夜にして本当の「悲鳴」になってしまったわけですね。苦労されてきたなかで、楽しい思い出もありましたか

昭和新山の火祭りでは、営業所の職員が丸となって、地域の方々と一緒に盛り上がりました。室蘭と苫小牧の港まつりなんかも必ず声がかかるのですが、みなさんの笑顔をみると嬉しいです。やりがいも感じます。

また、コロナのダメージからもようやく抜け出し、インバウンドも戻ってきました。バスは社会活動をリアルに実感できますから、人の動きが増えてきた状況を非常に嬉しく思っています。

——北海道に限らず、

▲2019年から社長を務めている長谷川義郎氏



続きは『月刊クオリティ』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)